

牧師室から(2023.2.26)

今日(26日)から学習会が再開する。先月の終わりに信徒懇談会が行われ、それに続く集会である。少しずつ活動ができるようになってきて嬉しく思う。

学習会で使うハイデルベルク信仰問答は信仰教育、例えば堅信礼の準備などの際によく使われる。内容的には改革派の信仰のエッセンスである。ハイデルベルクは歴史的にカトリック、ルター派、改革派がせめぎ合ってきた町である。まさにカルヴァン派に熱心であった領主がいた時、彼が神学者に命じて作らせたのがこの信仰問答集である。

ハイデルベルクは「コケモモの山」という意味である。コケモモとは北欧に自生する赤いブルーベリーのような植物であり、集めてジャムを作ったりする。確かにハイデルベルクの郊外には丘があった。そこに「哲学者の道」というのがあって、急な坂を上って行くとネッカー川と旧市街を見下ろせる。京都にも北白川にこれに因んだ「哲学の道」というのが小川に沿ってあるが、こちらは平坦である。

年輩の方はこの町の名前を聞くと、『アルト・ハイデルベルク』というキッチュな劇小説を思い出すかも知れない。私は昔読んだのでうる憶えだが、確か、皇太子が遊学して宿屋の娘との淡いロマンスがあり、最後はどんちゃん騒ぎで締めくくり帰郷するといった内容であったと思う。このようにここはヨーロッパでも屈指の古い大学がある大学の町である。

とにかくこれから皆さんと共に、この由緒あるカテキズムを学べるのが楽しみである。

(鈴木淳一牧師)